

# 札幌市議団ニュース

2011年10月21日 No.47

日本共産党市議団事務局発行  
電話 211-3221 FAX218-5124

## 第3回定例議会 決算特別委員会・論戦特集 ⑤

### <井上議員>

## 手遅れ死につながる資格証明書の発行は辞めるべき！

“国保料が払えず無保険状態”を強いられている市民が病院にかかれず、すでに手遅れで初診から短期間で亡くなる、いわゆる手遅れ死が、札幌でも昨年5件報告されています。

**井上議員**は、この問題を取り上げ「自営業を営んでいる1人暮らしの男性の場合は、収入が不安定で国保料が払えず資格証明書になっていました。'09年から腹痛、'10年からは嘔吐、呼吸困難もありましたが保険証がなく、仕事を休むと収入がなくなるので我慢をつづけていました。そんな時、知人からの紹介で病院を受診しましたが、胃がんの疑いで即入院。ところが、すでに手遅れで4週間後に亡くなりました。保険証がないために病院にかかれず亡くなった事例です。医療機関に照会し調査すべきだと思うが、いかがか」と質しました。

**川上保健医療部長**は「同封のしおりで医療が必要な場合はご相談下さい、窓口では本人から申し出があれば病院にかかれるように柔軟に対応しているので、個別事例の調査は考えていない」と調査を拒否しました。

**井上議員**はこれに対し「調査しないとほとんどないことだ！。この事例は氷山の一角に過ぎない。【資格証明書発行→手遅れ死】をひき起しているのは札幌市。市長は、今定例会の我党の代表質問に『保険証がないために手遅れ死になったというが、因果関係はよくわからない』と答弁しているが、驚くべき認識だ。『まずは区役所の窓口相談を』とよくいうが、行けないんです。行けば必ず市は“全額払え”というものだから行けなくて、先ほど紹介したように、手遅れで亡くなっている。この現実を重く受け止めるべきと思うが、改めて認識をうかがう」と迫りました。

**川上保健医療部長**の「支払いが困難な場合は実情を聞きながら親身に、きめ細かな納付相談をすすめている。資格証明書の発行は、納付相談の機会を確保するのが目的」との答弁に、**井上議員**は「保険証がなく、受診できずに手遅れ死に至っているのは重大だ。国民皆保険が崩れている。人の命を守るための国保が、あまりにも保険料が高すぎるために支払い困難者をつくりだし、保険証の取り上げで人の命さえ奪ってしまうことなど、絶対許されることでない。資格証明書の発行は辞めるべき。親身な納付相談に応じて、その方々が少しずつでも分割納付して保険料を払っていける温かい窓口にして欲しい」と強く求めました。(10/20)

### <小形議員>専門性の高い児童福祉司の増員が急がれる

今年度から、各区に主査と家庭指導員の2名体制で「家庭児童相談室」を設置し、区役所でも虐待通報などの初期対応にあたり、身近なところで相談ができるようにはなったが…。

**小形議員**はまず「2名体制になって、現状をどのように評価、認識しているか。児童相談所と各区との連携方

⇒ 裏面につづく

法はどのようになっているか」と質しました。

**難波児童福祉総合センター**所長は「軽易な虐待などは家庭児童相談室が、困難な事例やより専門性の必要なものは児童相談所がと役割分担している。児童虐待については円滑で適切な対応が必要なので、さらに連携を強めたい」と答弁。

**小形議員**は「児童福祉司は今年度2名増えた(→34名)が、一人が抱える相談件数が170件(24時間対応)と過酷(他の政令市と比べても30数件多い)。より困難な事例が増すなか、専門性の高い児童福祉司のさらなる増員が急がれる。また、各区の主査・家庭児童相談員の更なる専門性が課題だが、いかがか」と求めました。

**難波児童福祉総合センター**所長は「児童相談所の相談処理件数は増加、困難な虐待も増えている。児童相談所が十分に対応できる体制を職員数も含め関係部局と協議しながら検討させていただく。『家庭児童相談室』については虐待相談のみならず様々な児童福祉相談があるので、外部の専門機関への派遣研修を今年すでに実施、児童相談所が実施している専門研修にも参加させている」と前向きに答弁しました。(10/18)